

さわやか通信

令和8年6月1日発行

No.34

株式会社ウェルフェアネット

会社設立 平成12年12月
代表者 代表取締役 山城裕美
事業内容 福祉事業全般 筑紫地区を中心に
グループホーム 小規模多機能型居宅
介護施設の運営を主たる事業としている
基本理念 住み慣れた地域で安心して健やかに暮ら
せる老後をお手伝いします
基本方針 利用者おひとりおひとり、その人らしい
生活に日々「寄りそう」

あ
る
か
ま
ま
に
楽
し
く
ゆ
っ
た
り
と

さわやか憩いの家春日

利用者Hさん



絵 古賀 聖子

【令和8年度の「あいさつ」】



わたしが経営を引き継ぎこの1年を振り返ってみると、めまぐるしく変わる世界情勢と物価高騰の一言に尽きると思いますが、長年共に頑張ってきた仲間の施設が閉鎖し、これまでのケアが継続できないなどがありました。介護業界だけに限りませんが、世の中の物価高騰には介護職がついていけない現状があり、介護報酬改定や物価高騰による値上げの度、「ご家族には金銭的な迷惑をかけていることも感じています。また、人材不足の対策として介護DXがすすめられています。大型施設においては、介護ロボットや機器の導入、一気通貫したシステムを使うことで、腰痛予防や介護負担を補うことができますが、小規模の施設においては、それがあてはまるわけではありません。わたしたちが継承していきたいケアをするためには、上手に機器を使いながらよりよいケアを続けていくことが必要です。

とはいえ、マイナスなことばかりを考えてはいません。この一年、経営について様々な業種の方や、介護職から経営者になられた方と話をする機会が多くありました。その度に「わたしは恵まれている」ということを実感したという事です。さわやかテラス・さわやか憩いの家で働くひとり一人が、自分ごととして考えケアに繋げ、そのことが本人・家族へ返すことでよりよいケアに繋がっています。現場では、統括や責任者が一生懸命にケアを伝えながら本人・家族・地域に向けて行動できています。わたしと一緒に経営を真剣に考えてくれる同志がいることは幸せなことだと思います。26年前に信念をもってさわやかテラス・さわやか憩いの家のケアを守ってきた、現会長の平山がいてこそと実感しています。

さて、今年度の年度方針と運営方針に加えて、「言葉遣いを崩さない」という目標をたてました。よりよいケアを続けていくには、まずは言葉を大切にすることです。丁寧な言葉を使うことで互いに尊重し、これまでのケアを継続していくことに繋がります。各事業所の責任者も具体的に実行しています。

是非、お立ち寄りの際には方針に沿って行動できているか見て、声をかけていただければと思います。必要とされる場所であるよう邁進して参りますので、今年度もよろしくお願いいたします。

さわやかテラス・さわやか憩いの家

代表 山城 裕美



【グループホーム協議会 実践報告会】



NPO法人福岡県高齢者グループホーム協議会主催の第十九回実践報告会が春日市のクローバープラザにて「認知症の人とともに歩むグループホームケア」というテーマに沿って行われました。まずは事例発表があり印象に残った発表は、コロナ禍以降入居者の方ご本人主体の生活に戻すために、自分たちのことを自分たちで考える場として、「入居者会議」を企画したそうです。入居者同士の会話が増え、ご本人の思いを聞けるようになり、会話の中からアイデアが出てそのことを実現することができたという話でした。もう一つは伴奏型支援に取り組んでいる事業所の話です。若年性認知症になられても孤立を防ぎ、社会とのつながりとしてグループホームでの活動（畑作業や外出など）への参加を通して、役割や居場所づくりとなっている話があり大変勉強になりました。

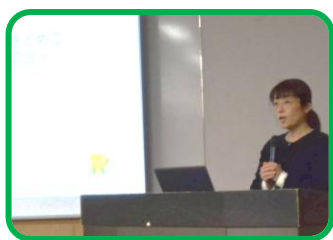
さわやかテラス二日市からも「今こそ伝えたい 忘れないように 書きとめて」二十五年続けている記録の大切さ」というテーマ実践発表を行いました。近年、業務効率化が求められています。人手不足という課題もありますが、入居者の姿やしぐさ、言葉を記録に残すことは簡素化してはならないと考えています。ご本人が望まれることをご家族スタッフで共有することがひいてはご本人のためになると思います。スタッフはご本人が言われたことを忘れまいと書きとめています。

外国人スタッフも難しい日本語に悩みながら記録に残っています。毎月ご家族へその記録を送っていますが、遠方の家族にとっても様子がよく分かると喜ばれています。今後も入居者の方々の言葉や思いを大切にしながら記録を丁寧に残し続けていきたいと思えます。

会の後半では、高知県立大学の矢吹知之先生から講話がありました。話の中で、「認知症になったら人生おしまいだ」と言われてきた時代から、『認知症基本法』が策定され、誰もが尊厳を保持しつつ希望を持って自分らしく暮らし続けることができること、認知症の人と家族が住み慣れた地域の中で参加ではなく参画していくことなど「新しい認知症観」をもつことの重要性を聞きました。本人参画として認知症カフェがあり、誰も何かしらの情報を得ることが出来る場所として広がっています。

さわやかテラスでも認知症カフェを開いています。改めて立ち取り取り組んでいこうと思えました。

(さわやかテラス二日市 佐伯 由美子)



【九州ブロック小規模多機能

実践発表交流会 in 大牟田

令和8年2月7日、大牟田市の大牟田アリーナで開催された実践発表交流会に参加しました。今年も約180名の参加があり、九州の11事業所の取り組みを聞くことができました。地域との関係づくり、みどり支援、利用者の生活を支える工夫など、多様で実践的な内容が多く、大変学びの多い時間となりました。

どの事業所も、利用者が望む生活をどう実現するかを真剣に考え、悩み、実践している姿が印象的で、その姿勢に触れ、私自身もより一層努力しなければならぬと強く感じました。

基調講演では、大牟田市役所福祉課 認知症地域支援推進委員の浦さんより、「小規模多機能型居宅介護施設と連携したまちづくりとは何か」というテーマで話がありました。小多機は単なる介護サービス提供の場ではなく、地域の方が介護で困ったときに最初に相談できる「地域の窓口」になる存在であると強調されていました。これまで私は、その役割を深く意識できていなかった部分もありましたが、今回の講演を通して、小規模で働く意味や地域に果たすべき役割を再認識する機会となりました。

(さわやか憩いの家春日 紺田 光二)



【台湾研修】

永年勤続10年を迎えた職員を対象に海外研修で4日間台湾に行かせて頂きました。台湾初の看護・介護に特化した国立大学『国立台北護理健康大学』を見学しました。この大学では介護専門の人材育成に力を入れており、AIを使った最新の実習をしていることや大学が国家資格の試験会場にもなっていました。その後、卒業生が経営している小規模多機能型居宅介護事業所『台北市復華長青多元服務中心』を見学しました。1階にカフェコーナーがあり地域の人も利用できる明るく清潔な環境で皆さん麻雀やカードゲームを楽しまれています。屋上には菜園があり、鯉を育てながら糞を肥料に水耕栽培で野菜も育て、環境にも優しい循環型農業を見学しました。見るもの全てが新鮮でした。台湾では日本の介護保険制度を参考にしていると聞きました。柔軟な考え方に大変勉強になりました。介護への考えや思いは、日本とも共通しているように感じました。

(さわやかテラス春日 吉野 恭平)



左は九份
下は国立大学



【中村学園大学との交流】

中村学園大学栄養科学科との関わりはコロナ前から始まりました。高齢者福祉に目を向けた研究への協力をとの話があり、さわやかテラス・さわやか憩いの家では手作りの食事を作っています。献立のマンネリ化や栄養の偏りがあると感じていたので、ありがたく感じたものです。栄養状態や食品数の関連性を分析してもらいながら、学生さんから献立のアドバイスももらいました。

コロナ禍でも、交流はあり現場実習はできなくても献立を送りアドバイスをもらうことで事業所全体で共有し、メニューに取り入れえました。

昨年度から学生さんが再び現場実習に来てくれるようになりました。一緒に入居者、利用者の方と調理をしたり、栄養を分析し研究につなげ課題を分析、考察し半年後に成果発表会がありました。施設と在宅を比較した栄養について、3食を分析した結果の栄養素についてなど大変勉強になりました。

今年度も昨年に引き続き5月から9月まで現場実習に来られます。互いに学び合えることがありがたいと感じています。

(筑紫野統括執行役員 田中 順子)



学生さんと作成した
ピザ

【セラピューティック・ケアの 実践報告】



セラピューティック・ケア育成研修を受講し、無事に資格を取得することができました。研修では、人の心と体に寄りそうケアの大切さを学び、優しいタッチによる手当てやコミュニケーションを通して、相手に安心感や癒やしを届ける方法を実践的に学びました。触れることの温かさや、相手を思いやる気持ちが心身の安らぎにつながることを実感できたことは、私にとって大きな学びであり、たいへん貴重な経験となりました。

これからは、この研修で得た知識と技術を生かし、入居者さんに癒やしと安心を届けていきたいと考えています。一人でも多くの方が笑顔になり、心がほっとできる時間を感じてもらえるよう、思いやりの気持ちを大切にしながら活動していきたいと思っています。

(さわやかテラス春日 高村 憲和)



【地域支援アドバイザー】

福岡県高齢者グループホーム協議会が主催する地域支援アドバイザー研修に参加しました。認知症当事者の声や発信をもとに地域の中で当事者とともに何ができるのかを考える研修となっています。

研修のなかで、当事者の声を丁寧に聞いていくか、当事者を抜きにして何事も決めていかないかと何度も話がありました。認知症になっても話ができること、やりたいことがあり、人として尊重される環境をつくることで当事者だけでなく、誰もが自分らしい暮らしを続けられることにつながります。そのためには支援する側とされる側といった関係性ではなく本人と一緒に地域をつくること、いく共生社会の実現の大切さを学びました。

今回の研修を通して事業所として当事者と何ができるかを考えた際にまずは入居者と一緒に地域へ出ることが最初の一歩だと感じました。さわやかテラスでは毎日、お散歩や畑仕事、買い物などで入居者と一緒に外に出る機会があります。ちよっとしたきっかけから地域支援に繋がっていくけないか考えていきたいです。

(さわやかテラス筑紫野 今村 耕平)



—あの日・あの時—

さわやか憩いの家大野城中央に入社して6年目になりました。昨年の秋、忘れられないお別れがありました。Aさんは団地に一人暮らしで、通いと訪問で毎日関わらせていただきました。通いの日はお迎えに伺うと「えー行きたくない」から始まり、話をする中で少しずつ「行こうかな」という気持ちになるのを待っていました。ホークスの柳田選手が好きなことなど沢山話して下さいました。昨年柳田選手は怪我の為、ほとんど試合出場はなく「ねえ何でギータは出とらんと？」とよく聞かれその都度説明し、試合中継のチャネルを合わせて帰ったりしました。柳田選手の復帰後ホームランを見られたか尋ねると「うん！打ったね」と笑顔でおっしゃいました。それから間もない、とても綺麗な秋晴れの日、空がきれいだからと通いへお誘いし「綺麗かね」と喜んで下さり清々しい表情で車に乗られました。いつもより体調もよさそうでした。車内での会話も好調で笑っておられました。憩いの家に到着され車を降りられる前にもう一度空を見上げられ「綺麗かね」とおっしゃり車を降りられました。数歩歩かれ「ちよつと待って」とおっしゃった途端、倒れられそのままお別れとなりました。数日後、ホークスはリーグ優勝、そして日本一になりました。

一緒に喜ぶたかったです。Aさんからいつどうなるか分からない命の儚さ大切さを教えていただきました。一日の積み重ねが人生となるこの言葉を大切に、あの経験を胸にお一人おひとりの一日を大切に少しでも笑顔で過ごしていただけるよう務めています。



さわやか憩いの家
大野城中央
西島 英誉

百歳万歳

☆石内ミツヨ様が1月21日に百歳のお誕生日を迎えられました。他利用者さんから「お祝いも祝福され、お祝いのちらし寿司を喜んで召し上がりました。」



☆池田二恵様が2月23日に百歳のお誕生日を迎えられました。息子さんご夫婦、娘さんもお越しになり、自宅の庭で咲いた梅の花と百寿のカラーである桃色のベスト、帽子を被ったデディベアをプレゼントされ喜ばれました。



編集後記

小さい頃の思い出には、いつも日曜日夕方の『笑点』があった。実家が写真スタジオを営んでいたため、撮影で忙しい土日はきまって祖父の家で過ごしていた。夕食の準備が進む中、コミカルなオープニングからあの番組が始まる。細かな内容は覚えていないが、楽しそうに笑う祖父の横顔は今も鮮明に思い出される。

先日の夜勤の日、日曜の夕方は『笑点』だと勇んでチャンネルを変えると、「それは私の親が見ていたものよ。それよりさっきの歌番組にして頂戴。」と利用者の方に苦笑いされた。この仕事を始めて19年。私にとつての「当たり前」の風景が、いつの間にか「ひと昔前」の風景へと移ろっていたことに、日曜日は『笑点』だとの思い込みでチャンネルを変えてしまうことを反省したことだった。

当たり前と思っていた風景が見られなくなるのは、少し寂しく感じるが、祖父の笑顔の隣に『笑点』があったように、これからは利用者の方に何でも聞きながら「それぞれ」と笑顔になれる時間を一緒に作っていききたい。そう思った日曜日の夕方だった。

紺田光二

(広報担当) 田中順子・紺田光二・長野太一

種子島こなつ・東桃子・岡本智子

ウェルフェアネット令和8年度の活動

- 社外研修・セミナー参加
- 日本認知症ケア学会
- 日本ホスピス・在宅ケア研究会
- 台湾研修
- 日本セラピューティック・ケア協会
- 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
- 九州地区での各種研修
- 他事業所との合同研修

- 各団体との関わり
- 福岡県高齢者グループホーム協議会
- 筑紫地区やさしい福祉結の会
- 日本介護福祉士会
- 福岡県介護福祉士会
- 筑紫地区小規模多機能連絡協議会
- 大牟田市介護サービス事業者協議会
- 中村学園大学栄養科学部

- 地域との関わり
- 各地域の自治会・育成会・老人会など
- 地域の保育園・小学校
- 民生委員・福祉委員
- 各地区の地域包括支援センター
- 筑紫野市介護を考える家族の会
- 春日市介護を考える家族の会「ひだまりの会」
- 大野城市防災士連絡協議会

検索してね!
検索 さわやかテラス



- 相談会や講座開催に積極的に協力
- 認知症サポーター養成講座
- 社外実習生の受け入れ
- 公民館活動との連携
- 災害広域相互協定の推進

筑紫野市

グループホーム

さわやかテラス 二日市

〒818-0067 筑紫野市俗明院1丁目13番5号
TEL092-918-0045 FAX092-918-0255

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家 二日市

〒818-0067 筑紫野市俗明院1丁目13番5号
TEL092-918-3830 FAX092-918-0255

グループホーム

さわやかテラス 筑紫野

〒818-0042 筑紫野市立明寺533-1
TEL092-917-7011 FAX092-917-7022

大野城市

グループホーム

さわやかテラス 大野城

〒816-0971 大野城市牛頸4丁目5番29号
TEL092-513-7511 FAX092-513-7512

グループホーム

さわやかテラス 大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL092-501-0352 FAX092-501-0323

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家 大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL092-501-0322 FAX092-501-0323

春日市

グループホーム

さわやかテラス 春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL092-588-3307 FAX092-588-3308

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家 春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL092-588-3531 FAX092-588-3308

株式会社ウェルフェアネット 本社

〒816-0864 春日市須玖北4丁目10番450
TEL092-582-0757 FAX092-582-0847